



おおにしだより

第31号

平成26年 1月16日

発行所：栃木市立大平西小学校校長室

より良い学校づくりを目指して



長縄とびの練習

新年、あけましておめでとうございます。今年は午年です。子どもたち、保護者の皆様、地域の皆様にとって、充実した飛躍の年となりますよう、心からお祈り申し上げます。3学期は、それぞれの学年のまとめの学期となります。本校教育目標の具現化を目指し、教職員一同精一杯努力してまいりますので、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、2学期にご協力いただきましたアンケートの集計がまとまりましたので、結果をご報告させていただきます。お陰様で98.7%（昨年度98.6%）というすばらしい回収率でした。大平西小に対する保護者の皆様の期待と熱意を感じることができました。ご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

なお、これらの結果や、教職員の自己評価及び学校関係者評価等を生かして、良いところは一層進め、改善すべきところは改善し、今後の学校運営に役立てていきたいと考えます。

【保護者アンケート集計結果】

番号	項目	結果(%)
学校運営	1 学校は、児童の実態及び保護者や地域のニーズを踏まえて、教育活動を実践している。	94→
	2 学校は、家庭や地域と連携・協力して、教育活動を行っている。	94→
	3 保護者は、学校の懇談会やPTA活動などに積極的に参加している。	84→
	4 学校は、情報（学校だより、学年だより等）を積極的に発信・提供している。	95→
	5 学校は、いじめや体罰のない学校づくりに取り組んでいる。(新)	89
教育活動	6 あいさつの声が行き交い、学校全体に活気がある。	84↑
	7 授業や学校行事など、年間を通して適切に設定され、実践されている。	94→
	8 教職員は、様々な教育活動を通して、児童の豊かな心の育成に努めている。	93→
	9 教職員は、授業を熱心に行い、児童の能力向上や可能性の伸長に努めている。	93→
子どもの様子	10 教職員は、いじめなど、人としてやってはいけないことをきちんと指導している。	90↑
	11 自分の子どもは、きちんとした言葉づかいや返事をしている。	72→
	12 自分の子どもは、自分の役割を果たし、きまりを守っている。	84→
	13 自分の子どもは、いじめをせずに思いやりをもって行動している。	94→
	14 自分の子どもは、好き嫌いなく食べている。	69↓
	15 自分の子どもは、体を動かし積極的に運動している。	78→
	16 自分の子どもは、自分の考えや思いをきちんと伝えられる。	63↓
特色ある活動	17 自分の子どもは、家庭での学習習慣が身についている。	62↓
	18 学校は、学習指導の工夫改善に努め、また、家庭学習の進め方などを通して、自分の思いや考えを表現できる児童の育成に取り組んでいる。	86→
	19 学校は、地域の自然や人との関わり、地域に学ぶ等の活動を通して、豊かな心の育成に取り組んでいる。	94→
	20 学校は、異学年交流活動（仲良しグループや仲良しタイム等）を通して、児童活動の活性化を図り、思いやりの気持ちをもって行動できる児童の育成に努めている。	96→

◎ 結果は4段階の「1とても思う」と「2少し思う」の計(%)を示してあります。なお、昨年度との比較で3%以上の差が見られるものは、↑↓で示しました。

《アンケート結果から》

①学校や教職員に対する質問には、8割から9割の保護者から肯定的な評価をいただきました。特に、1・2・4・7・8・9・13・19・20については93%以上と高い評価をいただいたことは、教職員にとって大変励みになります。また、19・20は、本校の特色ある学校づくりと関わりの深いものです。長年、学校全体で取り組んできたことが、保護者の皆様にご理解いただいているものと受け取れ、嬉しく思います。

②自分の子どもに対する質問（11・14・15・16・17）については、6割から7割に留まっています。自分の子どもが期待する子ども像にまで達していないと感じているのか、厳しい評価をし

ているようです。これらの項目は、いずれも習慣化するには、十分な時間と努力が必要です。学校と家庭とで補い合い、協力し合いながら身に付けさせていきたいと考えます。また、16は、本校の学校課題研究との関連が深い内容です。「表現活動の場を多く取り入れた授業の展開」「一人一人が主体的に思考・判断する活動の充実」「各教科等における言語活動の充実」「学びに向かう集団づくり」「自信をもたせる授業、コミュニケーション能力を育む授業の充実」等、学校全体での改善策をより一層講じていきたいと考えます。なお、17は、アンケートの中で最も低い評価となりました。学校と家庭が連携して、子どもの学習意欲を高め、家庭学習の習慣化が図れるよう努力してまいりたいと考えます。

③5は、新たな質問項目です（昨年度までは、「学校は、快適で潤いのある環境づくりに取り組んでいる」という質問でした）。学校経営上、極めて重要な課題ですので、100%に近づくことができるように努力してまいりたいと考えます。

貴重なご意見や要望などをたくさんいただきました。紙面の都合で、ご意見の多かった以下の二点につきまして、学校の考えを載せたいと思います。

意見1「人を思いやる優しい心をもつことができなければならないと思います。」

→ 社会が急激に変化する中、人間関係が希薄化し、集団や社会への不適応、自尊感情や規範意識の低下などの問題が生じています。そこで、これからの子どもたちには、人、社会、自然等との関わりを通して、自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や美しいものに感動する心などの「豊かな心」を育むことが必要です。

この「豊かな心」を育むため、本校では「道徳教育の充実」「人権教育の推進」「児童指導の充実」等に努めております。質問項目13「自分の子どもは、いじめをせずに思いやりをもって行動している。」では、実に94%の方々から肯定的な評価をいただくことができました。今後とも、子どもたちの人間らしい温かさ、優しさに充ちた学校づくりに努めてまいりたいと考えます。

ところで、この「思いやり」については「学習指導要領解説（道徳編）」に、「友だちとの間に信頼と友情及び助け合いの精神をもった児童を育てようとする内容項目」として、各学年に明記されています。また、学年が上がるにしたがって、相手の立場に立つことができるよう強調されています。学校では、思いやりの心、親切な心を全ての人に広げていけるように指導をしているところです。

なお、他を思いやる心をもつ子どもに育てるには、学校・家庭・地域社会が一丸となって取り組むことが必要です。とりわけ、幼児期からのしつけや家庭教育が何よりも重要です。児童の道徳性の基盤は家庭にあるからです。子どもたちは家庭の中で、礼儀、感謝、思いやりなど生活に必要な基本的な道徳的価値を身に付けます。そして、学校生活の中で、社会性や協調性、社会生活上のルールや基本的モラルなど、より高度な道徳的価値や道徳的実践力を身に付けていきます。

学校におけるそうした学習を定着させ、より積極的に取り組もうとする姿勢を温かく支えるのは家庭です。他人を思いやる優しい心をもつ子を育むためには、学校と家庭が共に補いあって、密接に連携し合いながら一貫した指導を行うことが何よりも重要なことと考えます。

意見2「登校班の班長が下級生の面倒をみないので何列にもなってしまう。注意しても聞かないので学校で指導してください。」

→ 貴重な情報に感謝申し上げます。学校では、事故防止の徹底に努め児童の安全意識の向上を図るよう努力をしているところです。しかし、ご指摘のように登校班がうまく機能していないということは、学校の指導が不徹底であると反省しなければならないと考えます。今後も、一斉下校時の全体指導や各学級での指導等を通して、交通ルールを遵守し、大切な命を守ろうとする態度を育成したいと考えます。

なお、次年度に向け1月15日（水）6校時に新しい登校班ごとに集合し、「新登校班編制」の会議を行いました。その際、育成会長の皆様にはお忙しいところ大変お世話になりました。ご指摘のようなトラブルが起きないように、また、仲良く安全に登下校できるように登校班の心構えも指導いたしました。ご家庭でも是非、安全な登下校の仕方について、お子さんと話し合っただけであれば幸いです。また、ご近所の保護者同士での話し合いもよろしく願いいたします。

ところで、保護者の皆様は「うちの子・よその子・栃木の子、みんなで育てて明るい未来」というスローガンをご存じでしょうか。これは、「栃木の子どもをみんなで育てよう運動」のスローガンです。栃木県教育委員会では、21世紀を担う心豊かな栃木の子どもを育成するため、地域を挙げて大人たちが相互に理解しながら子どもを育てていくことの重要性を広く県民に訴えていく運動を展開しています。それが「栃木の子どもをみんなで育てよう運動」です。今回、ご指摘をいただきました保護者の方のように、一人一人が、地域の大人の責任として、子どもたちの生活や安全に積極的に関わり、「いきいきと明るく元気な栃木の子どもの育成」に力を合わせて取り組んでいただければ幸いです。どうぞ、よろしく願いいたします。